



学校通信

花となれ 光となれ

為己 遂志 躍清

令和7年3月13日

第23号

一関市立藤沢中学校

夢に向かってはばたく我ら～卒業式・修了式～

3月13日（木）、令和6年度 第21回の卒業証書授与式が行われ、49名の卒業生が新たなステージへの第一歩を踏み出しました。

公立高校入試後の短い練習期間ではありましたが、卒業生は立派な態度で証書を受け取ったほか、例年恒例となっている構成詩「風の詩」と学年合唱「正解」で中学校生活3年間で成長した姿を保護者・来賓の皆様、そして後輩に見せてくれました。

また、後輩たちも送辞と全校合唱「春に」で立派に卒業生を送り出してくれました。特に2年生は全校合唱練習について、体育祭を見据えた組団ごとのパート練習を企画し、1年生をリードするなど、次年度の藤沢中を牽引するリーダーとして頼もしい姿が見られました。

卒業式では、校長として卒業生に次のような話をさせて頂きました。（以下、式辞より一部抜粋）

進化論を説いたチャールズ・ダーウィンは、こんな言葉を私たちに残しています。「何が生き残るのか。最も強いものが生き残るのではなく、最も賢いものが生き延びるのでもない。唯一生き残るものは変化できるものである。」変わり続けるものだけが生き残るとするのは、普遍の真理なのです。

ところが、今「自分は変わらない」「自分を変えられない」と決め付ける若者が増えていると言われています。生まれ持った素質のみを「自分らしさ」や「個性」ととらえ、それに合わないものを受け入れない、それを受け入れてもらえない自分を、不幸だと思ってしまうのだそうです。

しかし、本当の「個性」とは他者と交わりながら、何かを成し遂げていく中で、これが自分の持ち味だと気づいていくものです。自分という人間を、他者との交わりの中で磨き、何度でも作り直すこと、これが「進化」であり「成長」なのです。そして、こうしてつくり上げた自分の姿こそが「個性」なのです。

皆さんも中学校生活の中で、仲間たちと励まし合い、ときにはぶつかり合い、成長してきました。そして今、「卒業」を迎え、新たな他者と出会い、新たな人間関係を築こうとしています。どうか変化を恐れず、胸を張って他者と交わり、この地上で唯一の貴方自身を磨き上げてください。

生徒たちが生きる時代は、私たちが今まで生きてきた時代に比べ、社会の変化が加速度的に進んでいくと言われています。中学校で学んだ各教科の学習内容は、もちろん社会に出てからも役に立つもの信じておりますが、かといってそれだけでは十分ではありません。進んで他者と交わり、影響し合い、世の中の変化に合わせてしなやかに生きていく力が必要です。その基礎となる姿勢や態度を、さらに高校など次のステージで学んで欲しいと思います。

明日は修了式。きっと卒業式での素晴らしい3年生の姿を目に焼き付けた1，2年生も、先輩または最上級生という新たなステージに向かう決意を示してくれると思います。

最後となりますが、これまでの本校の教育活動へのご理解とご協力、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。また今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。



サクラサケ！ ～公立高校入試～



3月5日～6日、岩手県立高等学校学校入学者選抜の試験が行われました。今年度より推薦入試がなくなった他、各校の判断で一般入試の中に学校独自検査（面接や実技、小論文など）を設けたり、特色入試（面接や実技、小論文、口頭諮問、プレゼンテーションなど）を行ったりできることとなっています。

当日は朝から雪が降り、交通状況の悪化による会場入りの遅れが心配されましたが、そのようなこともなく、また感染症などによる欠席もなく、当日受験予定だった生徒は全員受験ができました。

1日目は全校共通して学力検査（国・数・社・英・理）、2日目は学校独自検査や特色入試の面接やプレゼンテーションが行われ、本校でもっとも志願者が多い千厩高校でも、学校独自検査として面接を行ったので、多くの生徒が2日連続の試験となりました。

多くの生徒たちにとって、人生で初めての本格的な試練でした。よく「受験は団体戦、入試は個人戦」と言われますが、それまでの受験勉強や面接練習などに互いに励まし合いながら取り組んできました。ぜひ14日の合格発表では、それが成果として表れることを期待しています。

生徒による「受験の感想・後輩へのアドバイス」より

- ・ 受験の前日は、自分が思ったより緊張して眠れなかったです。自分の生活リズムは崩さない方が良いでしょう、いつもより早く寝るのが良いとおもいました。
- ・ 高校の机が思ったよりも小さくて、物を何度も落としてしまったので、筆記用具は最低限にしておいた方がいいなと思いました。
- ・ 2年生までのうちに家で勉強する意識やクセをつけておかないと最後まで勉強できなくなるから、その力は欲しいと思う。
- ・ （一般入試の面接では）聞かれたことにただ答えるのに対して、特色入試では自由に3分間自己アピールをさせて頂けるのですが、そのために「自分の夢」を最初に考えるところが苦労しました。

大切な人の命を守るために～防災講話～



3月10日、翌日の「復興の日」を控え、防災に対する具体的な知識と技術を学ぶことをねらいとして、防災講話を開催しました。講師としてお招きしたのは自衛隊岩手地方協力本部出張所の皆川博之所長を始め、8人の隊員の皆さんです。

皆川所長の講話では、災害時には「自助・共助・公助」が必要だが、まず第一に自分で自分や家族の身を守る「自助」が大事であること、防災は頭で解っているだけでは不十分で、いざというときに勝手に体が動くようになるまで訓練することが必要であることなどが示されました。

その後の実習では学年ごとに分かれ、毛布と2本の棒を使った応急用担架の作り方と、それを使ったりレーを行いました。前回の「震災講話」に続き、生徒たちの防災への意識を高める良い機会となりました。